

年 組 名前：

問1

新品種^{しんひんしゅ}ブドウの「ソワノワール」は、
何^{なに}に^{つか}使うブドウですか。

.....

問2

「ソワノワール」とは、フランス語^ごで
何^{なん}という^{いみ}意味^みですか。

.....

問3

次の文章^{つぎ ぶんしょう}の①から⑥^あに当てはまる
言葉^{ことば}や数字^{すうじ}を、答^{こた}えてください。

『ソワノワールは、栽培^{さいばい}しやすい①と、
②の交雑種^{こうざつしゅ}。果実^{かじつ}に③が入りやすく、
④の含量^{ふくりょう}が①よりも多い^{おお}などの特徴^{とくちょう}があり、
ワインでは適度^{てきど}な⑤と、⑥も特徴^{とくちょう}という』

- ①..... ②..... ③.....
④..... ⑤..... ⑥.....



県は25日、新たに開発した「ソワノワール」に決めた赤ワイン醸造用ブドウの品種名を「ソワノワール」と発表しました。フランス語で「黒い絹」という意味で、色が濃く絹のようななめらかな味わいを持つワインの特徴にちなんだ。

県農業技術課に県が開発した赤ワイン醸造用ブドウ（真提供）

新品種ブドウ「ソワノワール」

よると、新品種は栽培しやすい品種とされるメルローと、わせ品種のピノ・ノワールの交雑種。果実に色が入りやすく、アントシアニンの含量がメルローよりも多いなどの特徴がある。ワインは適度な渋味と、まろやかさも特徴という。

長崎幸太郎知事やワイン県副知事を務める林真理子氏、田崎真也氏らが6月、東京都内で品種名を検討。ソワノワールと命名することを決め、県が7月に品種登録を農林水産省に出願した。

今月17日には農水省が出願を受け付けた品種の名称として公表。実際の登録までには4～5年かかる見込みという。

県は1992年に新品種の開発を始め、現在は試験醸造などを進めている。将来的には県内ワイナリー、農家などにソワノワールを広め、県産ワインの充実を図りたい狙いがある。

〈宇賀神将樹〉

(2022年10月26日付 山梨日日新聞 7面)

問4

ワインに使^{つか}われるブドウの品種^{ひんしゅ}を調^{しら}べ、たくさん書^かいてください。

.....